

輝く女性応援京都会議（山城地域会議）の開催結果概要

1 開催日時

平成30年2月16日（金曜日）14時00分から16時00分まで

2 場 所

文化パーク城陽 大会議室

3 出席者

- ・コーディネーター：関口 英里 氏（同志社女子大学学芸学部情報メディア学科教授）
- ・参加者：山城地域（宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村）で活動する女性団体、グループ、個人等 25名（うち市町村職員9名）
- ・事務局：京都府府民生活部男女共同参画課
京都府男女共同参画センター らら京都
京都府山城広域振興局

4 議題

- （1）「輝く女性応援京都会議（山城地域会議）」の発足について
- （2）意見交換 ～「つながる」を実感する～

5 主な内容（結果及び主な意見）

（1）「輝く女性応援京都会議（山城地域会議）」の発足について

- ・7月開催の「作戦会議」、10月開催のワークショップ「やましろ 女性の わいわいトーク」、1月開催の「企画会議」で提案されたアイデア等を紹介し、発足までの経緯と趣旨を説明。
- ・地域会議のネットワークによる情報共有等を行い、お互いに活動を支援し合う場としていくため、地域で活動する女性による交流・意見交換を今後も実施していく旨を説明の上、「輝く女性応援京都会議（山城地域会議）設置要綱」について意見交換。
- ・名称について、「支え合う」「つながる」「女性のネットワーク」等のキーワードが提案されたが、地域にどのような課題があり、自らの団体はどんなことができるかをまずは議論していくこととなった。
- ・構成メンバーについては、会議等でおはかりいただく機会がなく、現時点では「保留」として回答いただいている団体もある旨を説明。

<質疑等>

- ・出席者から会議目的や趣旨について質疑があり、地域の課題が複雑化し、一つの組織だけではカバーし切れない課題も増えてきた中で、様々な団体が、市域を超えて一緒に取り組むことによって、自らの活動のパワーアップにつながるのと同時に、地域でさらに力を発揮できる環境づくりにつなげるとの趣旨を説明。

- ・ 会議名称中「応援」の文言について質疑があり、応援する側とされる側に分けるのではなく、地域活動の中で各団体が抱える課題を会議内で出し合い、応援し合う場としていく旨を回答。

(2) 活動報告 ～「つながる」を実感する～

「山城地域で“つながる”を実感する」をテーマに、活動内容や課題と感じていることを共有。

<主な意見>

- ・ 「地域会議」での出会いがきっかけで学生とのコラボ企画を開催したところ、大変好評だった。この会議で顔を合わせていく中でつながりが生まれることを体感した。「私の団体はこれができます」に見える化していくことが必要ではないか。
- ・ 団体としてボランティアに取り組んできたが、地域でまだまだ知られていない。山城地域会議のネットワークからアピールしていきたい。
- ・ 会員の高齢化や人手不足などにより、自分達だけでは難しいと諦めていた事業がある。つながるための具体的な仕組みづくりをしていくことが今後ますます重要。